



あなたの

ありのまま

をうけいれ

あなたの

自分らしさ

をえがくがっこう



学びの多様化学校 設置に向けて

第3回 おつ市学びの多様化学校設置検討委員会



おつ市教育委員会

文部科学省への申請関係

学校名 定員・対象児童生徒 教育課程の基準の特例
指導上の工夫 日課表・週時程等
児童生徒・教職員の1日 動線的な配慮

第2回をうけて

通信票等の取組 スクールバス 給食
環境整備について 転入学（初年度・開校後） 基金

文部科学省への申請



Topic 1

学校名 校名を決めた上で開校を迎えたい

文科省
申請

4

学校名

未定で提出（むつ市立〇〇〇小学校・〇〇〇中学校）
愛称（むつ〇〇〇学園）

学校名決定の流れ

校名案を公募、ヒアリングした後、教育委員会で決裁

市民からの公募

SNS・広報等で
校名案を募る

ヒアリング

集まった校名案
意見を聴取
こどもの意見反映

検討委員会

検討委員会等で
候補を絞る

教育委員会
会議で決定

スケジュール

令和8年9月 校名案集約
令和8年10月 教育委員会会議への提出
令和8年12月 学校設置条例の改正



定員

少人数の学びが
可能となる定員を
想定している

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
人数	8		8		8		10	10	10
合計	24						30		
	54								

対象者

- ①おつ市在住またはおつ市内小中学校に通学する
小学校1学年～中学校3学年児童生徒
→1回目：おつ市在住・おつ市内学校通学者 2回目：+おつ市外在住者
- ②不登校状態もしくは不登校傾向にあること
- ③児童生徒・保護者両方に入学・転学の意欲がある

①～③の者のうち、教育委員会内の転入学支援委員会で適当と判断された者

学びの多様化学校設置までのスケジュール

体験入学

6

令和7年度

令和8年度

冬

市民への説明会
広報むつでのお知らせ

むつ市内在住 もしくは
むつ市内小中学校通学者

5月

入学説明会

8月

見学・体験入学

8月

転入学支援委員会

9月

転学児童生徒把握

左記の者に加えて
むつ市外在住の小中学生

8月

入学説明会②

9・10月

見学・体験入学②

11月

転入学支援委員会

12月

転学児童生徒把握

3月

内覧会
1日入学

令和9年度

4月

開校
開校式

教育課程の基準の特例（授業時数等）（例）中3

文科省
申請

現行の指導要領上の教科・領域等

本校の新教科

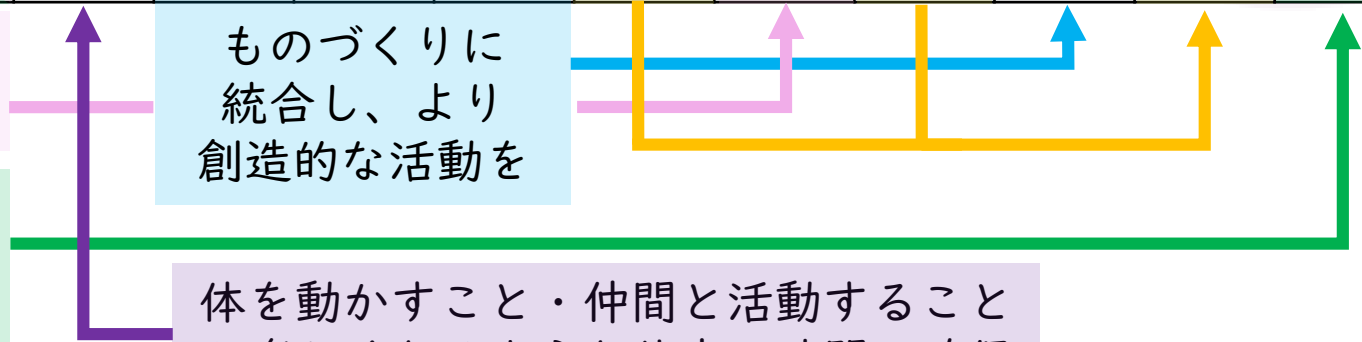
	各教科の授業時数									特別の教科道徳	きわめる(総合)	特別活動	ものづくり	つどい・かたり	〇〇タイム	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	外国語	保健体育	音楽	美術	技術・家庭							
本校	105	70	105	70	70	105	0	0	0	0	70	0	70	35	70	770
現行	140	105	140	105	140	105	45	45	70	35	50	35	0	0	0	1015

週1・2コマ減じる
総合的な学習の時間との連動

ものづくりに
統合し、より
創造的な活動を

自分で学びを選び、自分のペースで
じっくり学ぶ
進路に向けて重点的に学ぶ

体を動かすこと・仲間と活動すること
が楽しくなるような体育の時間の確保



学びの多様化学校での活動

幼児教育の基本「遊び」のアプローチを生かし
生活科、総合的な学習の時間の考えを参考とする

文科省
申請

8

つどい・かたり



1日のはじめに
教員と面談を行い
活動を見通す
こどもが集い
対話をとおして
考える・決める

〇〇タイム



自分のペースでじっくり
学ぶことができる
先の学習をどんどん
進めることも支援する
進路に向けて重点的に
学ぶ

きわめる



個別探究を基本とする
自分の「すき」
自分の「とくい」
を伸ばす時間

ものづくり



図工、美術、音楽、技術
家庭科、栽培活動等を
合科
手や体を動かし
五感をフルに使って
ものづくり、創造する

体験を大切にした教科の学び・主体的な活動でこどもの「よさ」を伸ばす

1日の生活の流れ

登校



9:30 登校

登校時刻を遅めに設定し気持ちに余裕をもって登校する

ウォーミングアップ



1日を見通す

職員と面談をし、心の状態を把握した上で支援を進める

学びの時間



体験的な学び

一人一人のペースや発達に応じた学びや体験的な学びでエネルギーをためる

クールダウン



1日を振り返る

職員と面談をし、1日の活動を振り返ることで成長や変容を自覚する

下校



14:30 下校

下校時刻を早めに設定し、次の日のエネルギーを残した状態で1日を終える

「考える」「きめる」「やってみる」のプロセスを大切にした教育活動

週時程・時間割

文科省
申請

10

時程	時間	月	火	水	木	金
9:30 登校						
Warm-UP	9:30-9:45	15	つどい・かたり			
1	9:50-10:35	45	まなびの時間 1			
2	10:40-11:25	45	まなびの時間 2			
3	11:30-12:15	45	まなびの時間 3			
昼	12:15-13:15	60	ランチタイム・あそび			
4	13:20-14:05	45	まなびの時間 4			
Cool-Down	14:05-14:20	15	クールダウン			
14:30下校						

給食配送
時間との
関連

(活動例)
ボランティア
清掃

登校後にウォーミングアップ、下校前にクールダウンの時間を設ける。
こどもと教職員が相談し、時間割を柔軟に組めるような週時程を構成。

教職員の1日の動き・関係機関との連携

文科省
申請

11

ミーティング

8:15-9:30



シフト、時間割等支援のミーティング

こどもを余裕をもって迎えられるような準備

地域のリソースを最大限にいかした
教育部局・福祉部局等
関係機関との連携

始業～終業

9:30-14:30



一人一人の得意なこと、好きなことを伸ばす支援・教育活動
体験的な学びの実施

▲支援方法のアセスメント

ケース会議、保護者支援▶

カンファレンス

14:30-16:45



次の日の支援にいかすためのカンファレンスの実施
こどもの実態に応じた教材研究

家庭訪問、保護者面談
ケース会議

基盤

特別活動の「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を基盤に設定

考える（話し合い）→決める（自己決定・折り合い）→やってみる（為す）

のスパイラルでエネルギーをためる

コンセプト

こどもが「～したい」「～できる」を支援する自律的・自発的な行事の計画

あらかじめ行事を設定しない「余裕」「空白」のある行事暦

年間行事のイメージ

1 学期

2 学期

3 学期

4月

7月

8月

10月

12月

1月

3月

開校式 はじまり
のつどい

保護者
面談

夏の
つどい

〇〇
フェスティバル

保護者
面談

冬の
つどい

保護者
面談

卒業式

2・3か月に1回（通年）

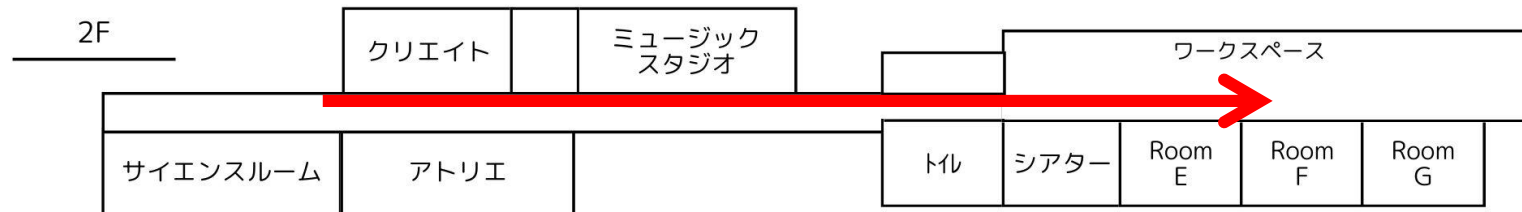
定期教育相談

転入学児童生徒体験入学・面談

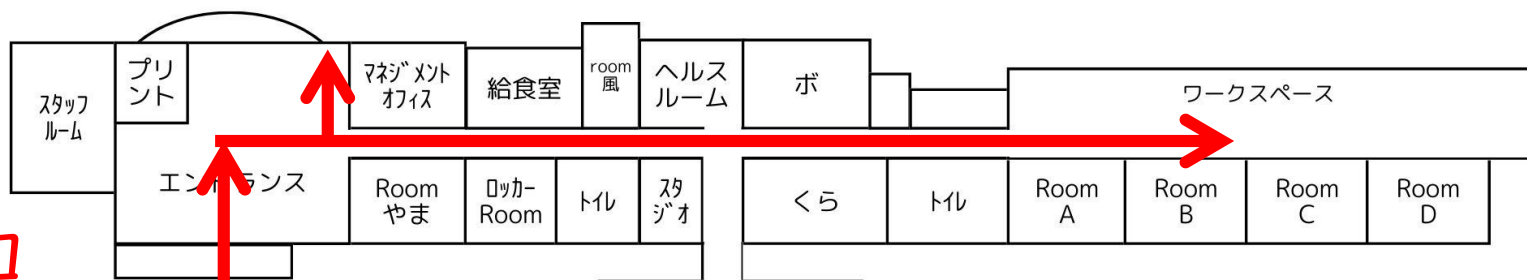
教育支援センターとの交流・情報交換

不登校児童生徒への動線的な配慮

集団が苦手
人の目が気になる
こどもへの複数の動線



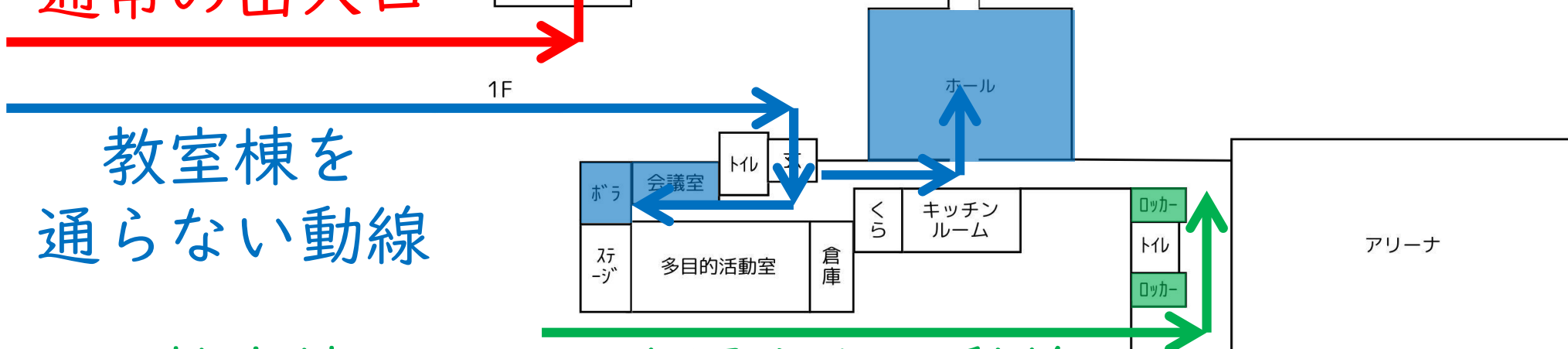
動線入口付近の個室



通常の入出口

教室棟を
通らない動線

教室棟・ホールを通らない動線



協 議
継 続

テスト・通信票・指導要録



Topic 2

副教材

一律一斉の教材
なじまない
より厳選する

学力テスト

基本的に参加・実施
しない

定期テスト

実施・作問は柔軟に対応
学びを振り返る機会の確保
変容や成長を実感できる取組

「希望制」とする 本人の求めに応じて個別に対応する
一律一斉の実施・計画はしない

1単位時間・単元・領域で丁寧に見取る評価
にいかす(いわゆる評定も可能)
本来の「指導と評価の一体化」の具現化

全国学調は参加で連絡

方 針

こどもが自分の変容や成長を自覚できる取組

- ・ こどもが「できたこと」
- ・ こどもが「こうすればできる」

保護者も我が子の変容や成長を味わう

- ・ こどもの「よさ」「得意」「次への目標」の共有

日常的な取組

日常的なコミュニケーション・綿密かつ素早い電話連絡

教育相談・保護者面談の充実

学校DX（学ポケ・Google等）を活用した丁寧な連絡

役割

学籍や学習・行動の記録をまとめた記録簿
進学・転学時の外部への証明資料
教育課程、学習指導要領内容の評価・指導の根拠資料

方針

各教科の学び ▶ 評価可能（評定も可能）
新教科 ▶ 文書記述により積極的に評価する

指導要録を活用

より本人のがんばり・能力を発達という視点から積極的に評価する文章記述

協	議
継	続

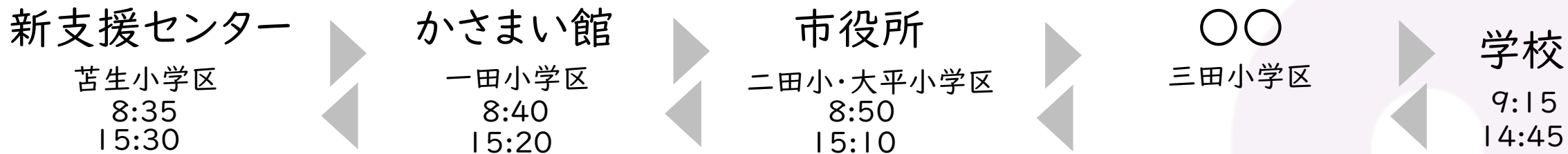
スクールバス



Topic 3

通学方法 市内中心部循環スクールバス・保護者の送迎・公共交通機関

市内中心部スクールバスイメージ 市内を循環するバスを1本配車



軒のある公共施設・見守りがある環境・小中学校と程よい距離感がある停留所を選定

公共交通機関(参考)

公共交通機関の併用

下北交通

むつ	奥内
野辺地線下り② 10:25	10:46
野辺地線下り③ 12:15	12:35
奥内	むつ
野辺地線上り③ 10:37	10:59
野辺地線上り④ 13:17	13:39

横浜	奥内
野辺地線上り② 8:14	8:37
野辺地線上り③ 10:14	10:37
奥内	横浜
野辺地線下り③ 12:35	14:45
野辺地線下り④ 14:45	15:08

JR大湊線

横浜	近川	下北	近川
8:36	8:48	8:09	8:24
近川	横浜	近川	下北
14:31	14:44	13:43	13:57
		15:18	16:08

想定ルート

協議
継続

20



むつ市役所
8:50 / 15:15



かさい館
8:40 / 15:25

新支援センター
8:35 / 15:30



三田小学区
9:00 / 15:05

停留所の選定

配車時刻前後に
開館している施設

有事の際に
ヘルプできる環境

在籍校から程よく
距離感がある



協	議
繼	統

給食



Topic 4

- こども 学校としての実感を
味わわせる重要な教育活動
- 保護者 保護者の心理的・経済的
負担軽減

給食の喫食を基本とする
但し、本人の状況にあわせて
選択可能とする

スケジュール

- R8.12 アレルギー調査票配付・回収
- R9.1 医師から「学校生活指導票」を記入
- R9.2 アレルギー対応給食喫食予定児童生徒の面談
- R9.3.15 4月喫食予定の給食数提出

市内給食配送・回収時刻(案)

差替

協議
継続
協
継

23

配送

センター
10:30

三田小
10:50

むつ養
11:10

多様化学校
11:20

※ミキサー食等の対応のため、
むつ養護学校を先に配送

給食

11:45 児童生徒喫食30分前の検食

12:15~13:15 給食・昼休み

※学校給食法第9条に基づき
学校給食衛生管理基準に規定

回収

多様化学校
13:20

むつ養
13:25

三田小
13:40

センター
14:00

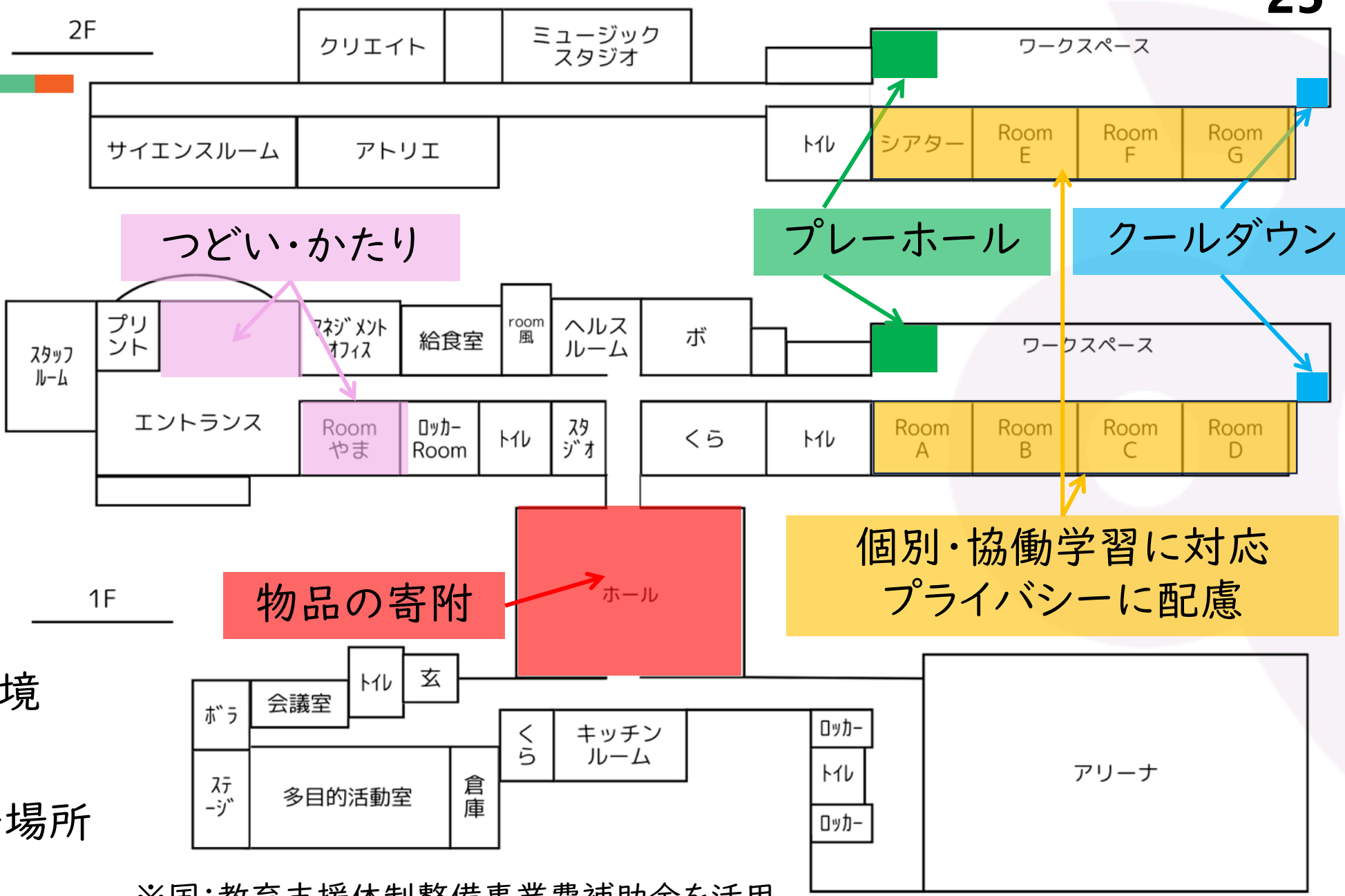
協 議
継 続

風通しのよい雰囲気づくり 環境整備の方針



Topic 5

環境整備



基本方針

奥内小学校
近川中学校の
備品を活用

備品購入

個別学習に配慮
・個別ブース
・パーテーション

クールダウンの環境
・おちつきルーム

ゆるやかに集う居場所
・プレーマット等

※国：教育支援体制整備事業費補助金を活用

普通教室



ホワイトボード
パーテーション

©プラス

プライバシーに配慮した環境整備



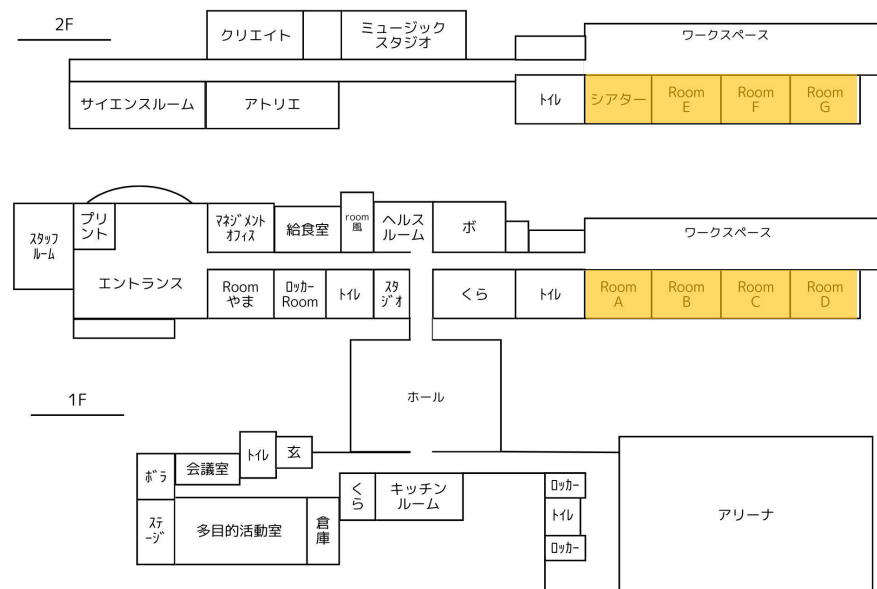
個人学習
ブース

©UCHIDA



©アイリスオーヤマ

キャスター付き机
個別・協働学習が
しやすい環境に



環境整備 こどもたちの支援をすすめるために

ワークスペース・踊り場

ビニールマット スペース

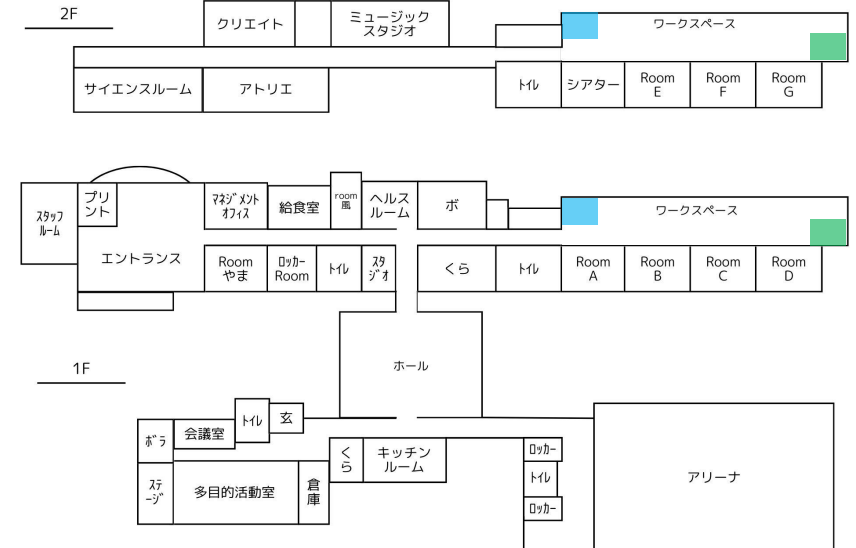
クールダウンルーム



©UCHIDA

ワークスペースに
小上がりを設置
カード・ボードゲーム等で
コミュニケーション
安心・安全な居場所を設置

教室から離れた
踊り場付近に設置
クールダウンの部屋を
確保し安心させる



環境整備 こどもたちの支援をすすめるために

ホール・面談ルーム

玄関ホール



©UCHIDA

玄関を入れてすぐに配置
こどもの気持ちがいやわらぐ
ような環境整備

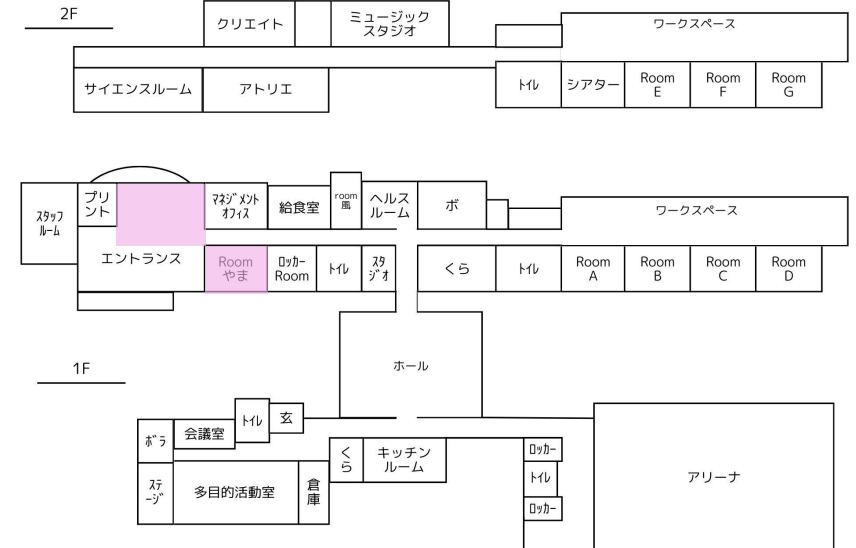
面談ルーム



©プラス

暖色系かつブロックの
ソファを置き、柔軟に
面談ルームを構成

登校時の
ウォーミングアップ
クールダウンを
より安心・安全な
環境の中で行う

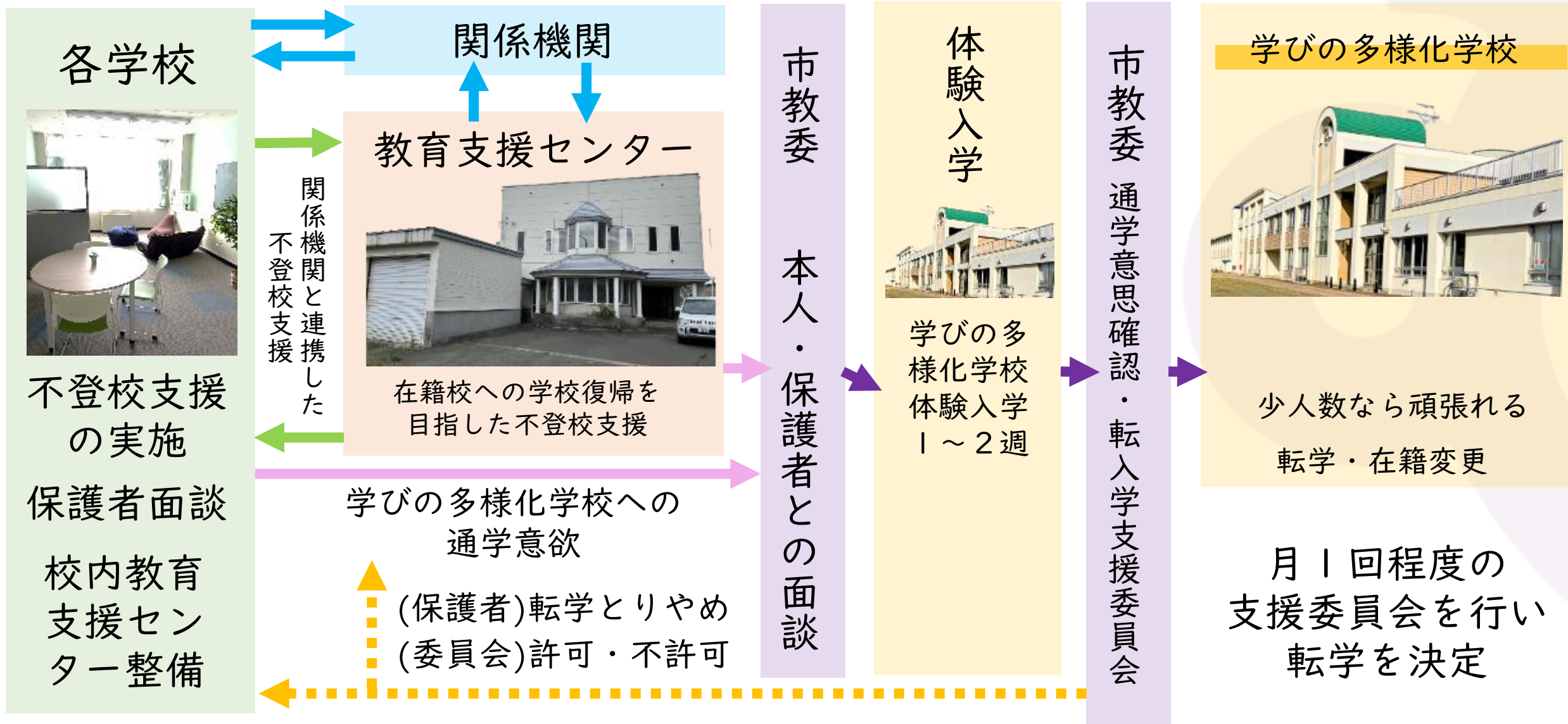


協	議
継	続

転入学の流れ



Topic 6

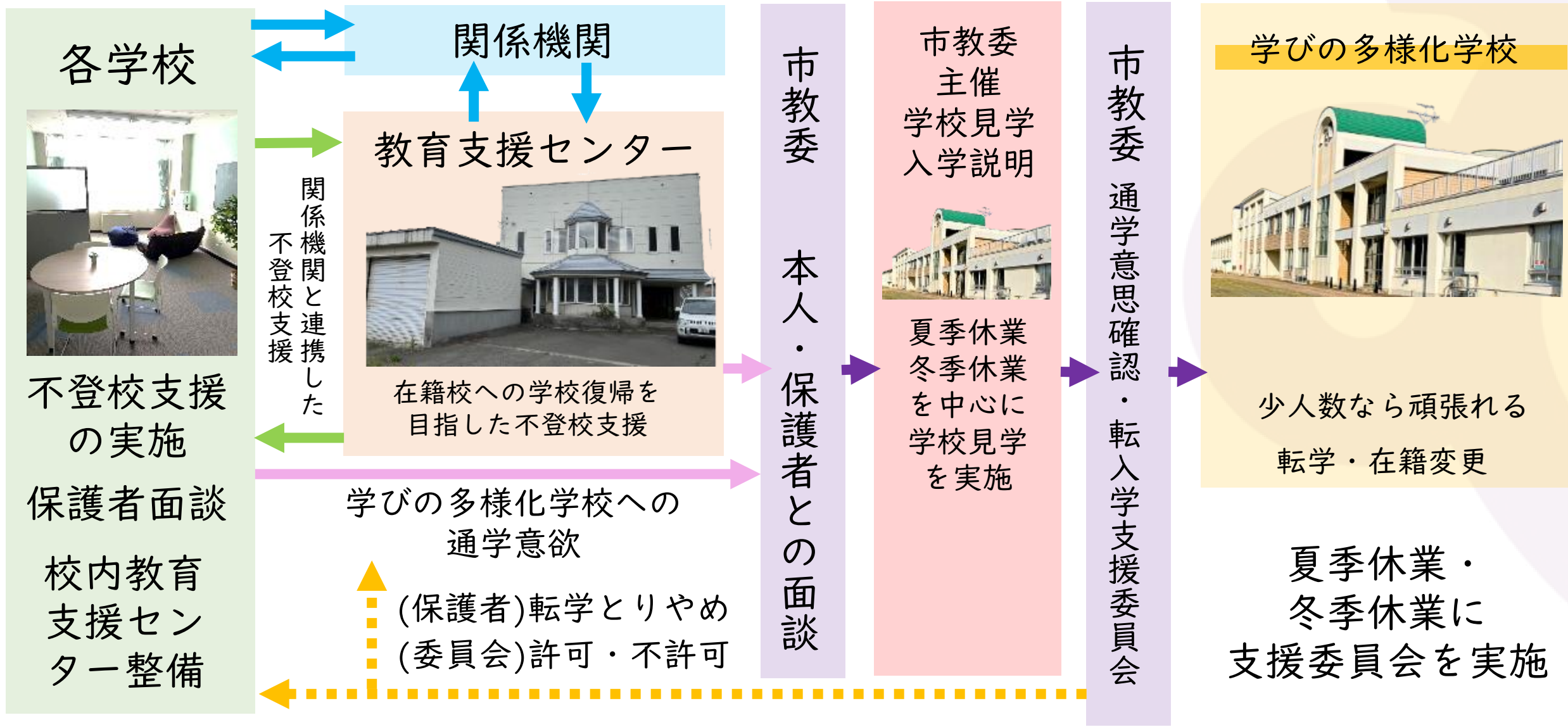


転入学までの基本的な流れ

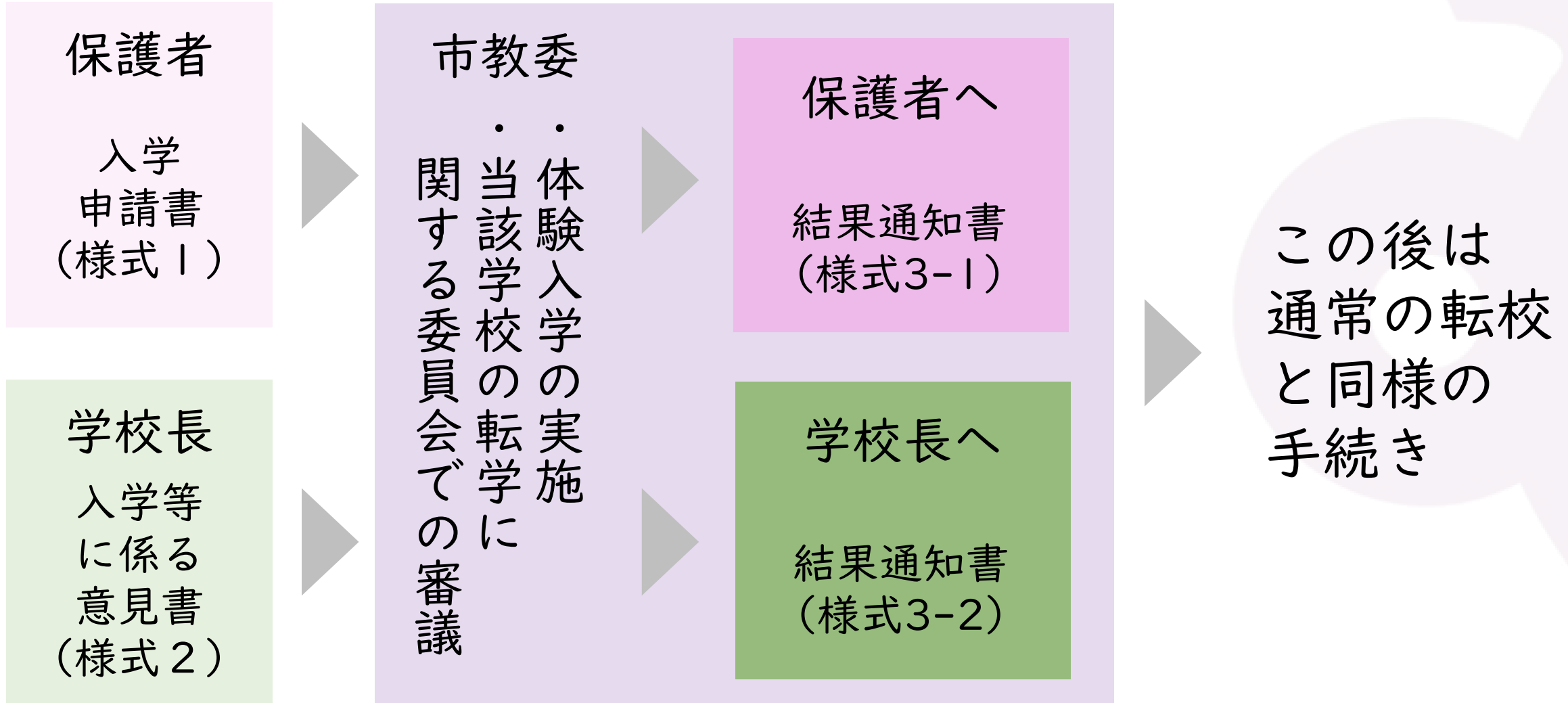
R 8

協 議
継 続

31



転入学まで申請書類等の流れ（案）



*参考：宮城県白石市「白石市立特例校の取扱いに関する要綱」

協	議
継	続

保護者支援について



Topic 7

P T A 組織は組織せず
親が集える場を提供



保護者を「孤独」にしない場の提供
親が集って、悩みを語れる場の確保
所属教職員との積極的な情報交換

地域のリソースを活用した
保護者支援



市教委・教育支援センターとの連携
福祉部局等関係機関との連携
→保護者面談・支援・サービス利用

協	議
継	続

教職員の配置・支援



Topic 8

令和8年度

4月

不登校支援プログラム①

～校内支援センターと
教育支援センターの役割と運営～

7月

不登校支援プログラム②

～学びの多様化学校から学ぶ不登校支援～

12月

不登校支援プログラム③

～効果的な支援の在り方～

随時

各種説明会の実施

各校の不登校支援の充実
学びの多様化学校への理解

年度初め(4月)の実施
通年での研修実施

魅力ある学校づくり
どの子にもかかわりを

教職員

R7県小・中学校
教職員配置基準を
参考に算出したもの

	県費負担教職員					市職員（会計年度）		
	校長	教頭	教員	養護 教諭	事務 職員	小中一貫 支援員	小中一貫 SC	用務員
人数	1	小1 中1	小3 中6	1	1	4	1	1
合計	14					6		

※小中併置校、学びの多様化に係る加配の可能性もある

ヒアリング

教職員の配置について（県教委への要望）

配属された教職員の資質向上、教職員へのサポート

配置される教職員 所管は県教委となる

当該校の教職員の配置はきわめて重要
どのような人材、教職員の専門性が必要か

教職員のモチベーション 「モデル校」として位置づけ

配置される教職員の主体性を尊重
スキルアップした教職員が他校で実践を波及

配置された教職員の研修機会の確保 市教育委員会が支援
(県教委とも連携)

市独自の職員の配置

県費負担教職員に加え、市独自の職員の配置も検討

- ・ 専属 S C 等（支援にアドバイスできる人材）
- ・ 支援員 複数名
- ・ 用務員

支援センターとの連携・活用・役割

支援センターのノウハウ、人材をいかす工夫

支援センターと学びの多様化学校の役割を明確化

むつ下北管内の現状

不登校をうまない学校・学年・学級づくり

不登校への対応

に苦慮

学校・教育委員会・関係機関のさらなる連携



教員の勉強会への支援・参加・協働 教育委員会も支援

月1回程度で地道に不登校支援を学んでいく
管内の不登校支援のスキルアップ・連携強化

協	議
継	続

こども夢育成基金



Topic 9

持続可能な不登校支援のために

むつ市こども夢育成基金

令和8年4月～

不登校児童生徒の社会的自立に係る支援



42

- ①学びの多様化学校の活動支援・環境整備
- ②教育支援センターの活動支援・環境整備
- ③各学校の校内教育支援センターの環境整備

10月教育委員会会議・12月市議会に上程

追加協議事項

学びのアプローチ



Topic 10

現状

保育と教育の大きな段差

小学校１年生でのつまずき（小１プロブレム）



学びの多様化学校で、

より「気付き」をうむようなアプローチ

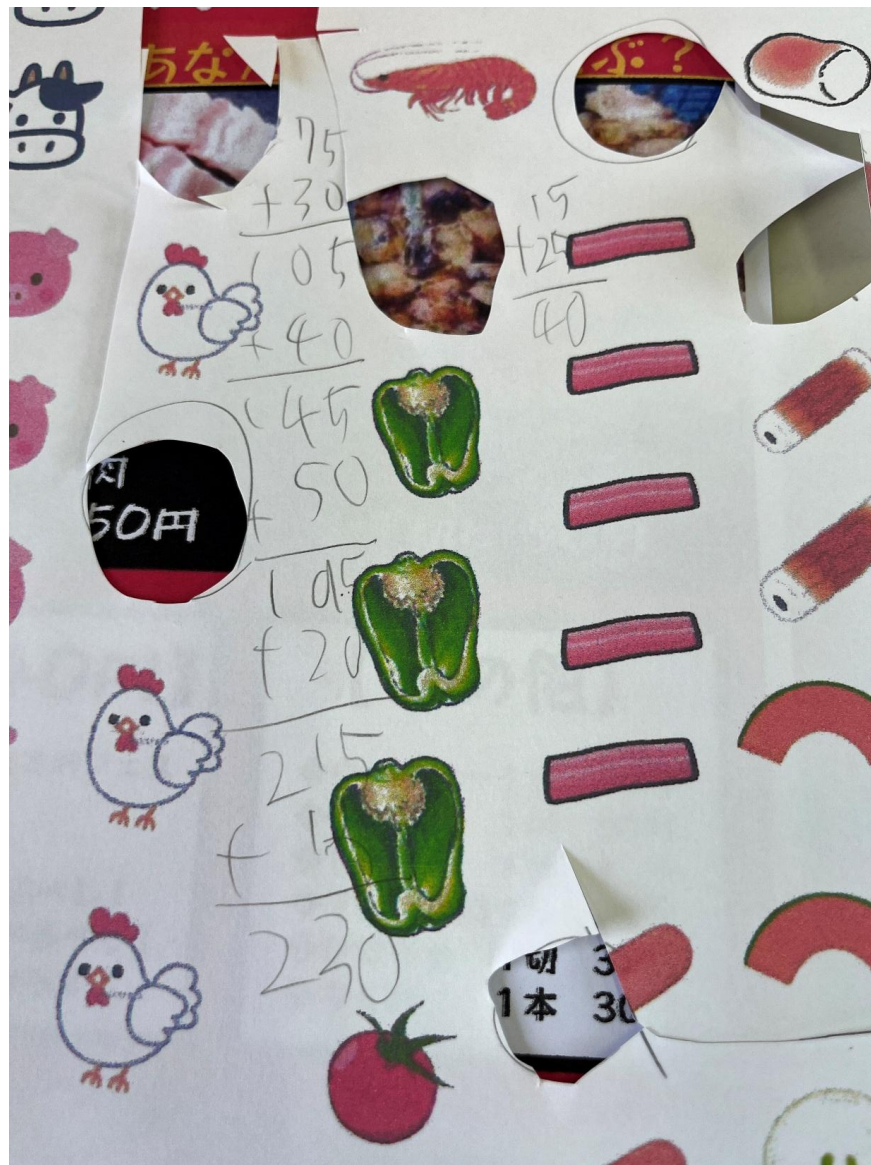
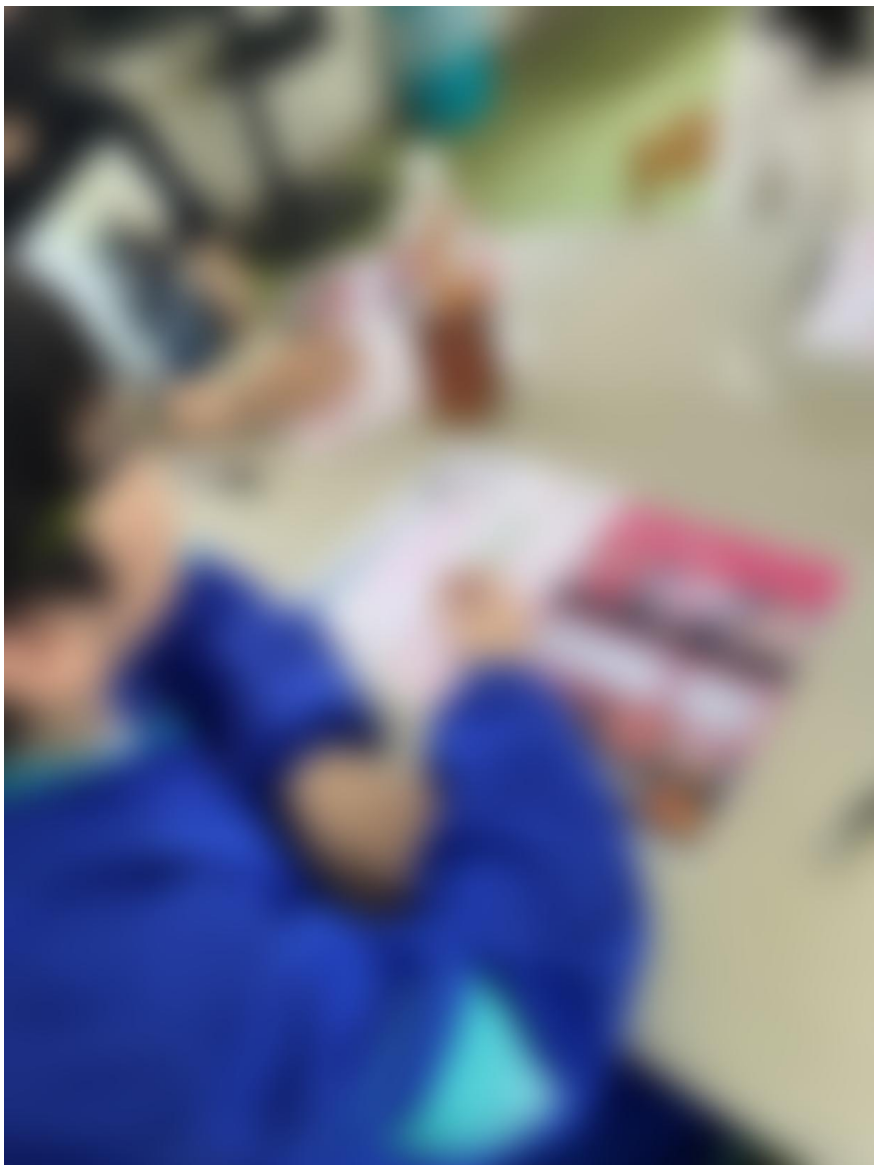
学びの興味・関心をもたせる教材・教具の工夫

→（参考）センターBBQの取組「考える・決める・やってみる」の過程

学びのアプローチ

追加協議事項

45



実生活・環境

↓ ↑
学び

考える

決める

やってみる

数への気付き

学びの必然性

追加協議事項

関係機関との連携



Topic 11

各学校の現状

むつ・下北管内にどのようなリソース
(人材・施設) があるか
そのリソースをどのように活用するか
関係機関と連携した問題解決に課題

学びの多様化学校

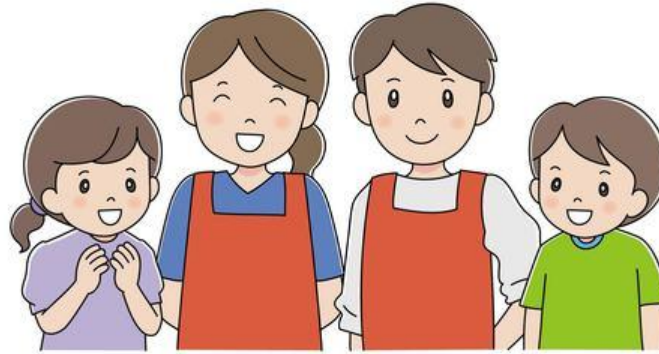
より関係機関との連携した取組が支援に有効
他校の「モデル校」として積極的な連携を図る

こども支援例

14:30下校時に見守る家族がない場合



学びの多様化学校



事業所



自宅



学校と関係機関がどのような保護者・こども支援ができるか検討が必要



ご協議
お願いいたします



教育支援センターHP



むつ市教育委員会事務局